

緑のカーテン 育成マニュアル



建物の壁面や窓辺に、ゴーヤなどのつる性植物をカーテンのように育成することで日陰をつくる「緑のカーテン」は、建物の蓄熱や室内温度の上昇を抑え、冷房の設定温度や使用頻度を抑えることができます。省エネルギー対策だけでなく、電気料金の節約にもつながります。

※マンション等での育成を開始する場合は、管理規約等を確認した上で育成してください。

緑のカーテン育成以外にも、こんな節電方法があります！

- 家電製品等のスイッチをこまめに消す。プラグをコンセントから抜く。
- 実際の室温28℃を目安に冷房を使用する。フィルターをこまめに清掃する。扇風機で空気を循環させる。室外機への日射を遮るために、すだれ等で日陰をつくる。
※エアコンの控え過ぎなど、無理な節電による熱中症に気をつけましょう。
- 冷蔵庫の設定温度を「中」にする。扉の開閉時間を短くし、物を詰め込みすぎない。
- テレビ画面の明るさを調整する。省エネモードに設定する。
- 白熱電球をLED電球や電球型蛍光灯に交換する。

- 「港区地球温暖化対策助成制度」を利用し、省エネ効果のある機器を取り入れる。

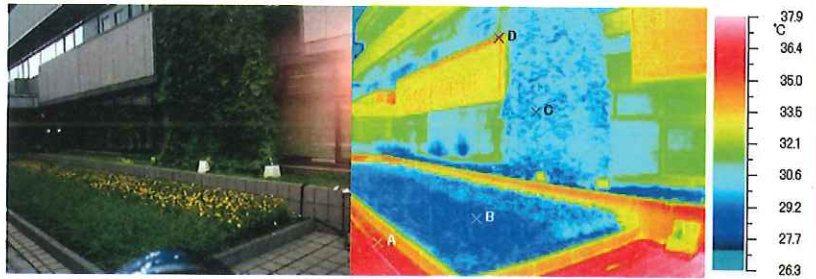
港区では、太陽光発電システム、ガスコージェネレーションシステム（エネファーム、エコウィル）、高断熱サッシ等の機器導入の設置にかかる経費の一部を助成しています。

詳しくは港区ホームページ (<http://www.city.minato.tokyo.jp>) をご覧ください。

緑のカーテンの効果

1 省エネ効果

港区役所3階に設置してある緑のカーテンの温度測定をした結果、庁舎壁面より緑のカーテン部分の表面温度の方が4.5℃以上低く、表面温度の低減効果が認められました。



建物温度の低減により、エアコンの使用を抑え、省エネ・節電につながります。(真夏のエアコン使用では20～30%の省エネ効果があります)



2 景観づくり

緑のカーテンに用いるゴーヤやアサガオは成長が早く、約1～2ヶ月で1階分を覆う大きさになり、花と緑のうまいある景観をつくれます。



3 生態系の保全

緑のカーテンには、小さな生き物を育む力があります。この小さな命は都市の生態系を健全化する助けになります。

緑のカーテンに取組もう！！

1 気をつけること

(1) 台風の時

強風や台風の恐れのあるときなどは、しっかりネットを固定するか、できるだけ一旦外して、移動しておきましょう。

(2) 葉っぱのお掃除

葉っぱが風などで飛んでしまうことがあります。お隣や、上下のおうちに事前に挨拶をして、掃除をしましょう。

(3) 害虫駆除

害虫駆除をするときは、葉が周囲に飛ばないように、静かにかけたり、葉をビニールで覆ってその中でまきましょう。

(4) 添え木

添え木をする場合は、転んだときなど目に刺さる危険があるため、丸みがあり、危なくない高さにする等気をつけましょう。

(5) 落下の危険

花台やプランターに足をかけたり、よじ登ったりすると落下の危険があります。絶対にやめましょう！！ 水やりをするときは、下の階や下を歩いている人に気をつけましょう。

2 用意するもの

(1) 苗

ゴーヤ、アサガオ、ヘチマ、ヒョウタン、フウセンカズラなど、つる性の植物ならば、ほとんどの植物で緑のカーテンはできます。

何種類かの植物を組み合わせると(ヒョウタンは注意)作る緑のカーテンも面白いです。また、キュウリやインゲンなどの野菜を植えれば収穫も楽しめます。

(2) プランター

十分に根が張ることができる土の量が必要なため、プランターの大きさは小さくても縦30cm×横70cm×深さ30cm程度必要です。

プランターが小さいと蓄えられる水の量が少なくなるため、水やりの頻度が増えて育てる負担が多くなります。

(3) 土

育てる植物によって土の種類も変わります。培養土や腐葉土など、いくつかの土を混ぜると良いでしょう。

(4) ネット

10cmの網目サイズが緑のカーテンにちょうど良い大きさです。つるがからまりやすく、強風の時も風が通り抜けるため、植物へのダメージが少ないです。

(5) 肥料

固形肥料と液体肥料があります。もっとも重要な栄養素は以下の3つになります。

窒素：植物の葉や茎などからだを大きくします
リン酸：花や実の成長を促します
カリウム：根の成長を促します

緑のカーテンの育て方

今回は例としてゴーヤの育て方を学びましょう！！

【緑のカーテン育成スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1 土づくり	←→						
2 種まき	←→						
3 ネット設置		←→					
4 植える		←→					
5 水やり		←→					
6 摘芯、誘引		←→					
7 追肥		←→					
8 収穫		←→					
9 片付け		←→					

1 土づくり

土は、市販の野菜用培養土を、やや多めに新規に購入することをおすすめします。そのとき「酸性調整済み」や「肥料入り」であることを確認してください。

培養土を自分でブレンドするときは、培養土4：小粒赤玉2.5：腐葉土1.5：発酵牛糞堆肥2の容量比で配合します。また、プランター1台あたり苦土石灰を一握り（約40g）をブレンドした土に、ていねいに混合します。

なお、根腐りを防止するため、必ず1～2cmの鉢底石（石や大粒赤玉石）を底から2～3cm敷き、排水性と通気性をよくします。鉢底石は発泡スチロールでも代用が可能です。

■ CHECK ■

培養土をブレンドするときの配合比

培養土：小粒赤玉：腐葉土：発酵牛糞堆肥

4 : 2.5 : 1.5 : 2

■ POINT ■

赤玉土はふるいに掛けて残ったものを使いましょう！！ また、中性～アルカリ性の土を好むゴーヤを育てるために、卵の殻やアサリやシジミの殻を砕いたものを入れるのも良いでしょう！！

2 種まき

(1) 種を2～3粒ずつ、20cm以上の間隔でまき（60cm級のプランターなら2カ所）、土を1cm程度かぶせ、水をたっぷり与えましょう。ゴーヤの種の発芽適温は、25～28℃と少し高めなため、日の良く当たる場所にプランターを置きましょう。また、市販のホットキャップ（プランター用の小さなビニールハウスのようなもの）などをかぶせて温度を上げると、発芽しやすくなります。

(2) 発芽し、本葉が2～3枚になったら、元気な苗を残して間引きをしましょう。ひよろひよろしている苗を選んで、間引きします。

■ CHECK ■ 間引きの仕方

根本からハサミでカットしましょう。引き抜いてしまうと、残した苗の根を傷つけてしまう可能性があります。

3 ネット設置

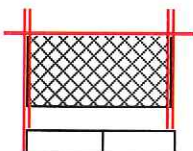
ネットは日が当たる側に設置します。ネットが揺れて不安定だと、つるの絡みが少なくなりあまり茂らなくなってしまうため、ネットはしっかりと張りをもたせて取付けます。

■ CHECK ■ 設置するときの注意点

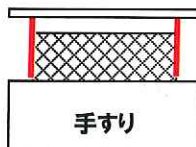
- ・台風時に一時的に降ろすなど臨機応変に対応するために、なるべく取外しがしやすいように設置。
- ・ベランダに設置するときは非常口、避難経路をふさがない。
- ・ベランダの外側に設置すると水やりや追肥のときに危険なため、ベランダの内側に設置。
- ・マンションなど、上の階に別の方が住んでいる場合は、天井から少し隙間をあけて設置。

■ CHECK ■ くくりつける場所がないときの設置の仕方

軒下やひさしの間などにくくりつける場所がないときは、園芸用の支柱などを活用しましょう。



支柱を組み立てる方法



手すり

ベランダの手すり天井の間に（地震対策用などの）つっぱり棒を取り付ける方法

4 植える

(1) 苗を植える位置を確認します。

※苗の間隔は20cm以上

(2) 軽く土を掘って植え付けをします。

(3) プランターをネット設置場所に移動させ、プランターの底から水が流れ出るまで水を与えます。

■CHECK■ ポット苗の選び方

- ・ズングリとしている苗(ヒョロリとしたものは避ける。)
- ・双葉が残っている苗(本葉が4~5枚のとき)
- ・ポットの裏に根が回っていない苗(苗が老化している。)
- ・緑色が濃すぎない苗(栄養障害になる可能性がある。)

■POINT■ 植え付けの仕方

植え付けを行う際は、決して茎を掴まず、ポットの土ごとやさしく持ちましょう。ポットの底をつまんで苗を押し上げ、上に出てきた苗を、ポットを横にして受け取るとうまく取り出せます。

ポットのまわりに根が回っている場合は、無理に引き抜かず、根をほぐしてからゆっくり取り出しましょう。苗もなるべくやさしく入れ、掘ったときにできた周りの土を鉢に寄せて軽くおさえます。

5 水やり

(1) 苗が小さいとき(5月~6月中旬)

水のやりすぎは禁物です。土の表面が乾かないうちに水をやると土が通気性を失い、ゴーヤが根腐れを起こし、うまく生育しない場合があります。

(2) 成長期(6月中旬~7月)

生育が進んでからは水を1日1回、朝か夕方にプランターの底から水が流れ出るまでたっぷり与えます。

(3) 成熟期(7月~9月)

夏の盛りになると、1日に2回水やりが必要な場合があります。

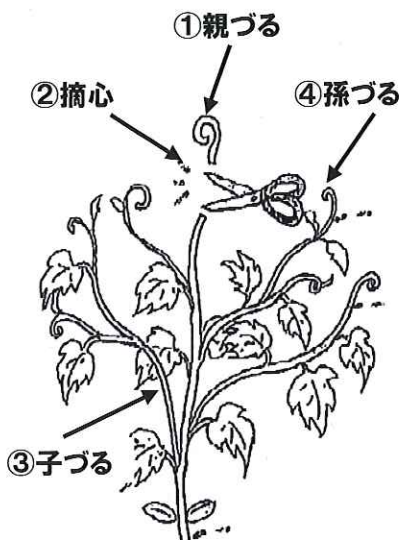
■CHECK■

昼間の水やりは基本的にしないでください。土の温度が高いときに水やりをすると、プランターの中でお湯になってしまい、植物が弱ってしまいます。

また、夏場にホースで水やりをするときも最初のうちはホースの中で温められた水が出る可能性があるため、十分注意してください。

※カラカラに乾いて枯れそうなきだけは、昼間でも水をあげてください。

6 摘心、誘引



摘心とは、つるの先端を切ることをいいます。

ゴーヤはほうっておくとどんどん上に伸びるだけで緑のカーテンになりません。ある程度の高さ(30cm~1m)になったら、親づるの先端を切ってください。親づるの先端を切ると、親づるから出ている子づるが伸び始め、さらに子づるから出ている孫づるが伸びてゆきます。

こうすることで、ネットいっぱいにつるが広がってゆき、緑のカーテンが完成します。

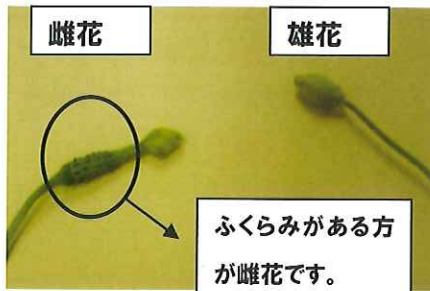
誘引とは、つるや茎をネットにうまく絡んで広がってゆくように導くことです。

脇芽が伸びたら、ネットに指で引っ掛けて誘引します。ネットからはみ出た葉は切ってください。葉が重なったときも同様に切ってください。風が通るくらいにしておくとも病気予防にもなります。

POINT アサガオの場合

アサガオは、親づるより子づる、子づるより孫づるに花が付きやすい性質を持っています。既に1回目の摘心をしているアサガオの苗は、子づるが伸びている状態ですので、更に2回目の摘心を行い孫づるを伸ばしてあげるとより一層花付きが良くなるでしょう。また、側芽は摘み取り、孫づるに栄養が行く様に心がけて下さい。

POINT ゴーヤの雄花と雌花の違い



花はいっぱい咲いているのに、実ができない・・・そのような時は一度、花が咲いている茎に注目してみましよう。ゴーヤの実は写真左側の雌花にできます。しかし、栄養の偏り等の理由から雄花ばかりが出てきてしまうことがあります。そのような時は、思い切って雄花を摘み取ってしまいましょう。または、窒素肥料を控えリン酸を多く含んだ肥料をあげましょう。

7 追肥

(1) 植え付けから花の咲き始めまで

市販の野菜用培養土に含まれている肥料(元肥)で十分です。

(2) 実のつき始めから

実を付け、肥大する時期になると、新たに多くの肥料養分が必要になります。これを追肥と言います。追肥には固形肥料と液体肥料があります。

固形肥料

株元から離れたプランターの隅に浅い溝を掘って肥料を埋める方法でじっくりと効果が現れます。

またプランター表面に固形肥料を散布し、水やりのとき水で少しずつ溶かしてゆく方法もあります。肥料の使用量や頻度は袋に記載されています。



▲固形肥料の置き方例

液体肥料

速効性がありますが持続性がありません。使用するときには薄めて使います。水やりと一緒にすることもできます。しかし、まちがって濃度が高い肥料を与えると根や葉にダメージを与えるので、倍率を間違わないように説明をよく読んでください。

CHECK

肥料の過度の使用は、肥料やけで生育障害を起こすことがあるので避けましょう。また、液体肥料をスプレーなどで葉にかけることで一時的に葉の色が良くなる場合がありますが大きな効果は期待できません。ゴーヤは丈夫なので、日当たりと水にさえ注意すればあまり神経質にならなくても大丈夫です。肥料は多く与えればいいというわけではないので必ず適量を守ってください。液体肥料と固形肥料を両方使う場合は、液体肥料を薄めに使用してください。

8 収穫



収穫までにかかる日数は気温によってかなり変わります。気温の高い時期は開花後15～20日程度ですが、気温が低い時期になると開花後1ヵ月ほどもかかります。収穫が遅れると、まだ濃緑色でも収穫後2～3日で先端部から黄化してしまうので、早どりを心がけましょう。

■POINT■ 種を採る場合

今年育てた植物の種を採り、翌年に命をつないでいくのも、緑のカーテンの楽しみのひとつです。ゴーヤの種採りは、果実が赤褐色に色づいたり、裂果したりする時期に行います。果実を割って種子を取り出し、水洗いして種子表面のぬるぬるを落とし、天日乾燥したり陰干しします。よく乾燥した種子をクラフト紙の紙袋（もしくは布袋）に入れ、冷蔵庫や冷暗所で保存します。ただし、今年育てた植物の種を採り育てることは、専門家でないと難しく失敗する場合があります。

9 片付け

夏の暑さがやわらいでくるころ、ゴーヤの実も生らなくなり、だんだんと枯れはじめてきます。

緑のカーテンを枯れっぱなしで放っておくと、見た目によくないだけでなく、寒い時期の貴重な直射日光をさえぎってしまいます。また、枯れ葉などがどんどん落ちていくため、周囲にも迷惑がかかります。10月に入ったころには緑のカーテンを撤去します。

ネットにからんだつるを外して根も抜き取ります。ネットはたたんでおき、つっぱり棒なども片付けておきましょう。

■POINT■ 土の再利用について

1年間使ってきた土は、ゴーヤに養分をすっかり吸い取られており、そのままでは翌年も継続して使うことはできません。

しかし、次の処理を行うことで、また植物を植えることができます。

- (1) 土の中の根などを取り除きます。
- (2) 土の量の25%程度を目安に、腐葉土を加えてよく混ぜます。
- (3) 苦土石灰を土の表面が白くなる程度にまき、よく混ぜます。

■POINT■ ネットの撤去の仕方

ネットの高いところまでつるが伸びてからまっぴり、ネットの撤去ができないといった場合は、まず水やり等をやめ、ある程度の高さのところをつるを切ってしまいましょう。そして、ゴーヤのつるが枯れたら、ネットから外しやすくなっているので、ネットから撤去しましょう。

虫と病気について

生育を毎日のように観察することが重要です。虫や病気の発生しやすい部分（水の跳ね返りのある下葉、古い葉や新しい葉が出てきている部分、つるの先端の成長しているところ）は念入りに観察してください。虫や病気は発生初期に発見できれば、あわてる必要はありません。以下、ゴーヤの代表的な虫と病気について紹介します。

(1) 葉に食害

発見しても一週間ほどしばらく様子を見ましょう。虫が葉を食べる期間は思うほど長くありません。生育が順調ならば食害で生育不良になる例はまれです。

(2) 葉に斑点やカビ

これも一週間ほどしばらく様子を見ましょう。進行が止まらないときには農薬の使用を考えます。

(3) うどんこ病

窒素肥料を多く使ったり、葉が茂って空気の流れが悪くなったり、湿度が高くなると葉の表面に白い粉のような斑点が現れます。蔓延を防ぐため発生した葉はすぐに取り去ります。使用できる農薬がありますので、散布する時期と希釈倍率を確認してから使います。

(4) アブラムシ

必ずと言って良いほど発生します。使用できる農薬はありますが、大発生しない限り、神経質になる必要はありません。どうしても気になる場合、手で潰したり、葉ごと取り去ります。農薬は、食品原料のヤシ油やでんぷんから作られたものを、散布する時期及び希釈倍率を確認してから使います。

■ CHECK ■

病気は自然治癒する機会が多いので、農薬の使用を考える前にまずは様子を見てください。過剰な手当ては生育に悪影響を及ぼす可能性があります。

生育障害

生育障害は虫や病気とは違う間違えやすい症状です。土に根をはって生きている植物には、土壌の栄養が植物の健康に大きな影響を与えます。しかし、市販の野菜用培養土は、適正な土壌酸度とバランス良い肥料(元肥)で調整済みですので、生育初期・中期での生育障害の発生リスクは限りなく低いです。

開花し、実がつき始めると、元肥の効果が薄れてきて、追肥が必要となります。このとき使う肥料の特性に合わせて適切な時期・量を与える必要があります。

この時期以降、窒素肥料の過不足が生育の良否に大きく影響します。その他の肥料要素のリン酸やカリウムは追肥で使う固体肥料や液体肥料にバランスよく配合されているので、これらの過不足による生育障害の発生リスクはほとんどないと考えることができます。

(1) 窒素が不足した場合	(2) 窒素が多すぎた場合
生育が進むにつれて下葉が枯れあがるのは生理的現象です。しかし不足していると極端に枯れあがりが進み、葉の色が薄くなります。また、果実の肥大が遅れたり、着果しても落ちたりします。生育が回復するには一週間以上の期間が必要です。	葉が茂りすぎ、葉の色も暗緑色と濃くなります。さらに茎が軟弱に伸びすぎることになり、虫や病気の発生をまねきます。草丈が高く、果実が付いてくると、もっと早く大きくしたいと追肥を多くしたくなりますが、ここ一番は見守ることが必要です。ここで追肥をした肥料は取り除くことができません。

実の利用方法について

代表的な実の利用方法を紹介します。

1 ゴーヤチャンプルー

【材料】 ・ゴーヤ…1/2本 ・スパム…180g ・卵…1～2個
 ・木綿豆腐…1/2丁 ・ゴマ油…小さじ1/2 ・コショウ…少々

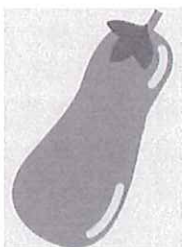
- (1) ゴーヤは縦半分に割ってわたと種を除き、適当な幅に切る。軽く塩（分量外）を振ってしんなりさせておきます。
- (2) スパムはひと口大に切り、さらに薄切りにします。
- (3) ゴマ油を熱し、まずゴーヤを炒め、スパムを加えてさらに炒めます。塩、コショウを入れ、ゴーヤの色が変わったらほぐした卵を加えて大きく混ぜ、火を止めて出来上がりです。

2 ゴーヤジュース

【材料】 ・ゴーヤ…1本 ・レモン汁…小1個分
 ・ハチミツ…大さじ1～2 ・氷片…適量

- (1) ゴーヤは縦半分に切ってわたと種を抜き、4cm程度の厚さに切ります。
- (2) ミキサーに材料を入れて回せば出来上がりです。

3 ヘチマのタワシ作り



- ・ヘチマができれば、収穫せずに陽当たりの良い所に放置するだけでタワシができます。
- ・手間暇かけて作るなら、熟したヘチマを水につけて約3週間位かけて腐らせて作ります。気温が高ければ早めに、涼しければもう少し長めにかかります。水につけている間は、きつい匂いがします。完全に腐ったら、皮を洗い落として、残った繊維を干します。乾燥したら、使い易い長さに切って完成です。

MEMO

緑のカーテンQ&A

1 花・実について

Q：花の時期はいつごろですか？

A：だいたい7月初め頃です。ただし個体差があるのでなかなか咲かなくても心配はいりません。逆に環境が悪いと早く咲いてしまうこともあるので、早ければいいというわけではありません。
※上手に育てると実が取れ続け、収穫の楽しみが増します。

Q：ゴーヤの花は咲いたけれど、実がならないのですが？

A：梅雨時期の低温・日照不足等により、花が咲いても結実しない事があります。ゴーヤには雄花と雌花があり、雄花の花粉を雌花が受粉してはじめて実がなります。普通は、チョウやミツバチなどが受粉を行ってくれますが、周囲に虫がいない環境では、受粉ができていないことも考えられます。

Q：人工授粉でも大丈夫ですか？高層なので虫が来ない可能性があります。

A：人間の授粉は、虫にはかなわず、なかなかうまくいかないものです。しかし、室内でも実がついた例もあるので、どうしても虫が来ない場合は挑戦してみてください。

Q：雌花が咲かないのですが？

A：リン酸肥料（花をたくさんつけたり、実が大きくなるのに使われる）を十分にするとチッ素肥料（植物の葉や茎など主からだを大きくするために使われる）を控えると雌花がつきやすくなります。

Q：実が大きくなりず、実がすぐ黄色くなるのですが、どうすればよいですか？

A：葉がある程度茂るまでは、栄養分が足りず実はあまり大きくなりません。ついた実をすべて育てると実が小さくなります。実が小さいうちに黄色くなるのは、栄養分が足りずこれ以上大きくなれないと悟って、早く種をつくろうと熟した可能性があります。

2 肥料について

Q：草花用の肥料をあげても大丈夫ですか？

A：希釈倍率で調節できます。説明書をよく読み、説明書の指示に従ってください。
ゴーヤは「野菜用」の希釈倍率を使用してください。

3 虫・病気について

Q：下の方から黄色っぽくなっており、葉の葉脈は緑色で他は色が薄いのですが？

A：栄養不足の可能性があります。肥料を与えてください。肥料に加え、お米のとぎ汁や薄めた牛乳も効果があります。

Q：小さい脇芽も黄色くなっているのはなぜですか？

A：根腐れの可能性があります。しばらく水やりを控えて、土がほぼ乾いてから水やりをしてください。普段の水やりは『土の表面が乾いたら、たっぷり』が基本です。

Q：葉の表面に白い粉が浮き、黄色くなっているのは何ですか？

A：うどんこ病にかかっている、やがて茶色く枯れてしまう可能性があります。雨が降った後に、急に晴れるとかかりやすい病気です。ゴーヤ、ヒョウタン、キュウリがかかりやすいです。雨上がりに、市販のスプレー薬を葉の両面に散布します。枯れた葉は取り除きましょう。また、下の方が枯れてつるだけになっても、新しく脇芽が出てくる可能性があります。あきらめないで様子を見ましょう。

Q：葉やつるにつく緑色の小さい虫は何ですか？

A：アブラムシの可能性がありますが、アブラムシとアリは共生関係にあるので、アリがいたら要注意です。ゴーヤに出やすい虫です。手で潰したり、牛乳をまいたりします。ひどければ薬をまいてください。

4 その他

Q：ポットで買った苗は、何日以内に植えればよいですか？

A：ポットのままでどんどん育ちますが、なるべく早めに植え替えることをおすすめします。あまりほうっておくと根がポットに巻きついて植え替えのときに抜けなくなってしまいます。

Q：ポットで育ててしまったときはどうすればよいですか？

A：ポットの底から出てきた根を丁寧にほぐしてゆっくりはずしてください。どうしても絡まって外れない場合は、はみ出た根を切って取り出してください。

Q：葉を茂らせて、カーテンをきれいに覆うにはどうすればよいですか？

A：先端の芽をところどころ摘んだり、小さい実や雄花を摘んで、栄養分を葉に行き渡らせるようにします。7～8月までは、早めに花がら摘みをして、ツルを伸ばすことに使わせるように仕向けることが、プランターで大きな緑のカーテンを作るコツです。

Q：緑のカーテンは取り付けたまにはできないですか？

A：夏が過ぎると枯れてしまうので1年ごとに取り外してください。ネットも取り外しができるように設置してください。同じ土のままで何度も同じ植物は育たないので、土も取り替えるか、再使用できるように処理をしてください。

MEMO

いろいろな緑のカーテン

1 アサガオ

(1) ニホンアサガオ

色々な大きさや花色や斑入りなど様々な品種があります。ちょっと小ぶりの緑のカーテンを楽しむのに適しています。週1回程度液体肥料とともに水をやります。

ニホンアサガオ▶



(2) リュウキュウアサガオ



花色はムラサキです。生育はひじょうに旺盛で、摘心をせず放任栽培をします。花も秋遅くまで楽しめます。週1回程度、水とともに液体肥料を与えます。土の乾きをみて適宜水をやります。肥料が不足するようならば固形肥料も与えます。

◀リュウキュウアサガオ

2 フウセンカズラ

たくさんの風船状の果実がぶら下がり、よく茂ったときは非常に涼しげです。週1回程度、水とともに液体肥料を与えます。土の乾きをみて適宜水をやります。肥料が不足するようならば固形肥料も与えます。

フウセンカズラ▶



3 ヘチマ



緑のカーテンのなかで用途が広い植物です。食用にできますし(直径5cm位が食べ頃)、生育途中に茎を切ってヘチマ水を集めてみたり、果実が完熟するまで待ってヘチマタワシを作って楽しめます。水やり、肥料やりはゴーヤに準じます。

◀ヘチマ

4 ヒョウタン

生育が強いので、他の植物と一緒に植えるのは避けます。水やり、肥料やりはゴーヤに準じます。実を加工して水筒や置物をつくってみてはいかがでしょうか。

ヒョウタン▶



緑のカーテン育成マニュアル

平成28年(2016年)3月発行 発行番号 27242-5611

編集・発行 港区環境リサイクル支援部環境課

港区芝公園 1-5-25 電話 03-3578-2498